

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 26 年 3 月 13 日 (2014.3.13)

【公表番号】特表 2011-519349 (P2011-519349A)

【公表日】平成 23 年 7 月 7 日 (2011.7.7)

【年通号数】公開・登録公報 2011-027

【出願番号】特願 2011-500060 (P2011-500060)

【国際特許分類】

A 6 1 K 9/107 (2006.01)

A 6 1 K 9/19 (2006.01)

A 6 1 K 47/14 (2006.01)

B 0 1 J 13/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 9/107

A 6 1 K 9/19

A 6 1 K 47/14

B 0 1 J 13/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 26 年 1 月 24 日 (2014.1.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 1 種の脂質と、少なくとも 1 種のスクロース脂肪酸エステルとを含むことを特徴とする凍結乾燥ナノエマルジョンであって、前記脂質と前記スクロース脂肪酸エステルが、相互に 1 : 1 ~ 5 : 1 の質量比で存在することを特徴とする、前記凍結乾燥ナノエマルジョン。

【請求項 2】

少なくとも 1 種の活性化合物を含むことを特徴とする請求項 1 に記載の凍結乾燥ナノエマルジョン。

【請求項 3】

C₈ ~ C₂₂-脂肪酸、好ましくは C₈ ~ C₁₈-脂肪酸を含むモノグリセリド、ジグリセリド及び/若しくはトリグリセリド、並びに/又は脂溶性ビタミンが脂質として存在することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の凍結乾燥ナノエマルジョン。

【請求項 4】

トリグリセリドが脂質として存在することを特徴とする請求項 3 に記載の凍結乾燥ナノエマルジョン。

【請求項 5】

トリグリセリドが C₈ ~ C₁₂-脂肪酸を含むことを特徴とする請求項 4 に記載の凍結乾燥ナノエマルジョン。

【請求項 6】

スクロース脂肪酸エステルが C₈ ~ C₂₂-脂肪酸、好ましくは C₁₂ ~ C₁₈-脂肪酸を含むことを特徴とする請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の凍結乾燥ナノエマルジョン。

【請求項 7】

脂質とスクロース脂肪酸エステルが、相互に 2 : 1 ~ 4 : 1 の質量比で存在することを

特徴とする請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の凍結乾燥ナノエマルション。

【請求項 8】

脂質相と水相が 0.5 : 99.5 ~ 30 : 70 の質量比で存在するナノエマルションを凍結乾燥させることによって調製されることを特徴とする請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の凍結乾燥ナノエマルション。

【請求項 9】

請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項に記載の凍結乾燥ナノエマルションから、水による再分散によって調製されることを特徴とするナノエマルション。

【請求項 10】

脂質と水が相互に 0.5 : 99.5 ~ 50 : 50 の質量比で存在することを特徴とする請求項 9 に記載のナノエマルション。

【請求項 11】

最初に常法でナノエマルションを調製し、引き続き凍結乾燥を利用して前記ナノエマルションから外部水相を除去することを特徴とする、請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項に記載の凍結乾燥ナノエマルションの調製方法。

【請求項 12】

乳化前に、水相若しくは脂質含有相のどちらかに少なくとも 1 種の活性化合物を溶解させるか又はエマルションの凍結乾燥前に少なくとも 1 種の活性化合物をエマルションに添加することを特徴とする請求項 11 に記載の方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

(実施例 1)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルションを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	5g
中鎖トリグリセリド	10g
水	85g

(実施例 2)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルションを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	5g
大豆油	10g
水	85g

(実施例 3)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルションを調製する。

スクロースミリスチン酸エステル (Ryoto M1695)	5g
中鎖トリグリセリド	10g
水	85g

(実施例 4)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルションを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	5g
中鎖トリグリセリド	20g
水	75g

(実施例 5)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルションを調製する。

スクロースステアリン酸エステル (Ryoto S1670)	5g
中鎖トリグリセリド	20g
水	75g

(実施例6)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	5g
中鎖トリグリセリド	30g
水	65g

(実施例7)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	7.5g
中鎖トリグリセリド	30g
水	62.5g

(実施例8)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	10g
中鎖トリグリセリド	30g
水	60g

(実施例9)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	7.5g
中鎖トリグリセリド	10g
水	82.5g

(実施例10)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	10g
中鎖トリグリセリド	10g
水	80g

(実施例11)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

<u>スクロースミリスチン酸エステル (Ryoto M1695)</u>	7.5g
中鎖トリグリセリド	10g
水	82.5g

(実施例12)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

<u>スクロースミリスチン酸エステル (Ryoto M1695)</u>	10g
中鎖トリグリセリド	10g
水	80g

(実施例13) (活性化合物を含むナノエマルジョン)

下記物質を用いて、上記一般的方法に従ってナノエマルジョンを調製する。

スクロースラウリン酸エステル (Ryoto L1695)	7.5g
中鎖トリグリセリド	30g
フェノフィブレート	1.5g
水	61g